

第一講座 物語文(1) 基本問題

学習のねらい

- 1 場面・情景を理解する。
- 2 心情を理解する。

例題 1

この文章は、春のある日、ノンちゃんは登っていたモミジの大きな木の枝から、きれいな雲が映っている池に落ちて、せまい穴をくぐりぬけたような感じで、ふわっと浮かんで雲に着き、雲に乗りながら、そこで出会ったおじいさんに家族のことなどを話しているところだ。後の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

答えはすべて解答用紙に書きなさい。
「、」「や」「も」一字に数えます。

胸はドキドキ、頭はガンガンするばかりです。耳のはたでワアワアうるさい声ができるのは、ノンちゃんの泣き声でしょうか。いいえ、ノンちゃんは、ふあつ、ふあつ、とあえぎながら、涙をこぼしているだけです。
「だれが そんなばかなことをいったのだ、先生か?」おじいさんが、こわい声でいいました。

ノンちゃんは考えました。先生はいつも、人はうそをついてはいけなしいいいます。でも、そういうとき、ノンちゃんは、先生のお話に出てくる「人」のなかに自分を入れて考えたことはありません。先生も、たぶんそうだったのでしょう。

ノンちゃんは首をふりました。すると、またおじいさんが、こわい声で「だれだ、それじゃ、おとうさんか?」

ノンちゃんは、泣き笑いしそうになりながら、首をふりました。おとうさんという人は、そういうことをちっともいわないのです。ほんとは、もう少しいいほうがいいのです、にいちゃんには……。

「じゃ、だれだ?」

ノンちゃんは、すすりながら、一生懸命考えました。まだ子どもであるノンちゃんが、うそはいけないと思うからには、おかがそう教えたのでしょうけれど……おかあさんではないし、にいちあんでは、なおおらない……。

だれにもいわれたんじゃない、とわかったとき、ノンちゃんは、

もうこれで何もかもおしまいだというようなせっばつまった感じにうたれました。

「うわあっ! うわあっ!」

「こりゃ、なんじゃい! だめか!」
ノンちゃんは、かなしくうなずきました。
「おかしいな……。おまえ、うそつくの、いやだ、いやだと思つとるんじゃないか?それだから、出て来んのだろう。なぜうそきらいだ?だれかにそういわれたな?」

おじいさんは、ノンちゃんのほうへ、ひとひき、にじりよりました。

ノンちゃんが、チラと見あげると、いままであんなにやさしかったおじいさんの目が、キッとノンちゃんをにらんでいます。

ノンちゃんは、またけさのよつに、顔がひきつり始めました。涙がポタポタ、おち始めました。

「ひとつ、つけば、それでいいのじゃ。ひとつで家へ帰れるんじゃないぞ」

ノンちゃんは、ひとつ、つこうと思ひました。が、口をきくところではありませぬ。何かに頭と足をキュッとおさえつけられてくるように、

けさの泣き声どころではありません。ノンちゃん全体が、泣き声のかたまりになりました。ノンちゃんは、まるでいのちがけのように、身をもんであばれました。

「だれもいやしない！だれもいやしない。あたしがいやになった……。あたしが、うそきらいなんだア……。」

ああ、どうしたらいいのでしょうか。もう家へは帰れません。おかあさん！おとうさん！にいちゃん！……。

ノンちゃんは、夢中で、やわらかいおじいさんのからだへ、ドウンとぶつかっていききました。

問1 「ばかなこと」とはどんなことですか、簡単に書きなさい。

問2 「そつだった」とはどうだったのですか、簡単に書きなさい。

問3 では、どのようなことに首をぶつたのですか、簡単に書きなさい。

問4 「泣き笑いしそつになりながら」「は、どうしてそつなのですか。次から適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア おじいさんのこわい声がおもしろかったので

イ まさか言いそつにないおとうさんが出てきたから

ウ 答えに困っている真剣な自分がおかしくて

エ 泣きたいけれどやせがまんから笑ったふりをして

オ あきらめ気分でもつてもよいと思ったので

問5 「なおよさらない」「という言葉から」「にいちゃん」「はどんな人でしょうか、簡単に書きなさい。

問6 「何もかもおしまいだ」と思ったのはどうしてですか、簡単に答えなさい。

問7 のようにノンちゃんは、どうしてしたのですか。その時のノンちゃんの気持ちを書きなさい。

漢字力診断コーナー 1 小5までの漢字

- ゲンインを調べる。 目のケンサをする。
- 生徒をシドウする。 ヒョウバンのよい店。
- セイキンをおさめる。 アツい辞典を買う。
- 日本ドクトクの文化。 時間をタシかめる。
- 人数がへる。 チームをタイダンした。
- シヨウタイジヨウをもつ。 ケイケンしたこと。
- 遠足のジyunピ。 コミをモやす。
- チヨウカンを読む。 緑がホウフだ。
- 家でネコをかう。 熱にコウカのある薬。
- ジケンが起る。 コセイを大切にす。

例題2

暗い晩で風が吹いていました。よははふと机から頭をもちあげてガラス戸へ顔をくつつけてみました。暗くて、ざわざわ木がゆれているきりで、なんだかさびしい晩でした。ときどき西の空で白いよう糶光がしています。こんなに暗い晩は、きつとお月さまがこ病気なのだろうと、より江は兄さんのいる店の間へ行ってみました。……

兄さんは帳場の机で宿題の絵を描いていました。

「まだ、おつかさん戻らないの?」

「ああ、まだだよ。」

「自転車に乗って行ったんでしょ?」

「ああ、自転車に乗って行ったよ。提灯つけて行ったよ。」

より江たちのお母さんは村でたった一人の助産婦さんでした。より江はつまらなそうに、店先へ出て、店に並べてあるざるやなべや、バケツなどをひい、ふう、みい、ようと数えてみました。戸外では、いつか雨が降り出して、湿った軒灯に霧のような水しぶきがしていました。兄さんは土間へ降りてガラス戸を閉め、カナキンのカーテンを引きました。

より江はさつきから土間の隅にある桶のところを見していました。

「健ちゃん! 蛙がいるよ。」

「蛙? どちら、どこにいる?」

「ほら、その桶のそばにつくばっているよ。」

「ああ、青蛙だね。なんで入ってきたのかねえ。こら! 青蛙、なにしに来た?」

より江はこわいので、兄さんの後ろにくっついていました。青蛙はきよとんとした目玉をして、**A** 胸をふくらませています。……

ぼん、ぼん、ぼん、店の時計が八時を打ちました。より江は時計をみあげて、お母さんはどこまで行ったのかしらと怒ってしまいました。より江はさびしいので、兄さんが大事にしているハーモニカ賣してもらって、一人でためらめに吹いて遊びました。小学校六年生の健ちゃんとはときどき机から顔をあげて、

「よりちゃん、ハーモニカにつばをためちゃいやだよ。」

といいました。より江はハーモニカを明かり透かしてみました。たくさん窓があるので、小さいより江は、すぐ汽車のことを考え出して、ハーモニカをそろばんの上に置いて「汽車ごっこ」をしてひとり遊びました……

より江が板の間の方までハーモニカの汽車を走らせていると、戸外で、

「今晚、今晚は……。」

という声がかかります。

兄さんの健ちゃんはびっくりした顔をして、「だれかね。」と大きい声で返事をしました。すると、表のガラス戸を開けて、見たこともない一人の男の人が入って来て、

「腹が痛いのだが、薬を売ってくれないかね。」といいました。……

健ちゃんは、すすけた天井から薬袋を降ろして見知らぬ男の人のところへ持ってゆきました。男の人はたいへん疲れていると見えて、土間へ入って来ると、すぐ板の間へ腰かけて「ああ」と深いためいきをしました。

「だれもないのかい?」

とその男は健ちゃんにききました。健ちゃんは泣きそうな顔をして、

「うん。」といいました。雨が強くなったのでしょう。ガラス戸が**ふ**

るえています。その男の人は健ちゃんから水を杯もらって銭を置いて帰りました。帰るときに乗合自動車はもういないだろうかとききました。

「九時まであります。」

と健ちゃんが答えると、その男の人はガラス戸をいねいに閉めて雨の中へ出て行きました。……

より江は、ギアという雨の音をきくと、いまのおじさんはぬれてかわいそうだとおもい、

「傘を貸せばいいのに……。」

と兄さんにいいました。兄さんは壁にあつた傘を取つて、ガラス戸をあけ、「おうい。」といまの男の人を呼びました。男の人は「三十歩行っていましたが、健ちゃんも雨の中を走つて傘を持っていくと、びっくりするほど健ちゃんの肩をたたいてよろこびました。

漢字力診断コーナー 2

小5までの漢字

心からシャザイする。
キヨカが下りる。
五年生のフクシユウ。
こづかいがフえる。

問1 この文章は三つの場面に分けることができます。第一場面は、
第二場面は、
第三場面は、

交通キセイ。
仕事にセキニンをもつ。
シヨクインシツに入る。
作文のナイヨウ。
テキのチームは強い。

問2 この文章は、時の移り変わりをうまく表現しています。十字以内で答えなさい。

セイジ家のポスター。
新しい町にナれる。
駅を通りスぎる。

何によつて時の移り変わりを表現していますか。漢字二字で答えなさい。

ニユウジヨウケンをもらつ。
友達に本をカす。
自動車をユシユツする。

段落の中で、それがえがかれているのは、どの一文ですか。その文の初めの五字を書きぬきなさい。

工場で自動車をツクル。
フクザツなもよう。
ゲームにムチュウだ。
ニチジヨウのできごと。

問3 A・Bには、本文二行めの「さわさわ」のように、物のよ

基本問題1

うすを表すことばが入ります。それぞれに最もふさわしいことばを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

(あしたは、家へ帰るんだわ。)

ア びくびく イ ひくひく ウ ときどき エ きしきし
オ はたはた カ びりびり

りえは、林の中の小さい草むらを見つけて、おおむけに寝ころびました。こんなことができるのも、その子叔母さんの山荘にきているからでした。その叔母さんは、おかあさんのいもつとです。

問4 この文章には、より江と健ちゃんのほかに、蛙と男の人がえがかれています。この文章には、より江と健ちゃんの二人にとって、蛙と男の人は、どのような共通

(来年の夏もこよっと！叔母さんがだめっていつても、あたし、きつとくるわ。)

点をもつたものとしてえがかれていますか。十五字以内で答えなさい。

りえは、深呼吸を一つして目をとじましたが、木もれ陽がまぶたのうらでしきりにちらちらするので、すぐにまた目をあけました。

健ちゃんにとって、蛙と男の人は、どのような違った点をもつた (青い空ねえ！魔法にかけられそう……。)

ものとして、えがかれていますか。二十字前後で答えなさい。

ふうつとため息をついたとき、顔の上を大きなチョウがはたはたと通り過ぎました。

沢をわたり、切り通しをぬけて、チョウは、はたはたとどこまでも飛んで行きます。

後ろ翅にヤマブキの花びらのような黄色い紋のある、黒いアゲハチョウです。

いつのまにか木が混んで、あたりは、ひんやりとす暗くなってきました。

() A ()

と思ったときです。

F ()

あわてて起きあがると、アゲハチョウは、飛びながらりえをふりかえりました。りえは、おどろいてチョウのあとを追いました。

行手の大きなミズナラの木の陰からさつと白い腕がのびたかと思うと、白くて長い指をマンサクの花のようにひらめかせて、チョウを手のひらにつつまこんだのです。

アゲハチョウは、二メートルほどの高さを木の葉のへりにもつれるように、はたはたと飛んで行きます。それは、りえが、小走りについていくのになちよ

あつというまもありません。

うどよい) B ()でした。

白い腕はすぐひっこんで、それきり、チョウの飛び立つ気配はありません。

日射が強いので、日なたの木々はきらきらとまぶしく照りかえり、日かげの木々は、ぬれたようにくろくるとかげついでいました。

(女の人がいるのね。でも、なぜ、かくれてるの?)

チョウは、日なたと日かげをぬうようにして飛んで行きます。

りえは、ときどきする胸をおさえてミズナラの木に近づき、()、幹のうしろへまわってみました。

(あたししたら、いったい、どこまでチョウを追いかけて行くつもり?)

が、誰もいません。

沢に出た時、りえは、不安になって立ちどまりました。すると、チョウは、沢の暗いかけの途中にとまって動かなくなりました。

(逃げたのかしら……でも、どこへ? 見えなかったし、音ひとつしなかったわ。)

(不思議なチョウチョねえ……。)

もしやと思って梢を見上げると、日にてらてらと光る葉がいつせいに笑いだすように思えて、りえはきゅうにこわくなり、今きた道をとつともどどりかけました。

りえは、すずしい木かげに入って休みながら、() () チョウをながめました。

ところが、今きたばかりの道が、さっぱりわからないのです。

(あたしに、つかまえられるのかしら。)

(どうしよう……。)

() D ()

見まわすと、がんじょう盤おひのように、木の幹がぐるりとりえをとりか

行こうか、帰ろうかと) E ()、りえは、チョウとあとを追っていました。

森につかまってるみたい……。)

そう思ったとたん、りえは、頭の中がかつとして、「だれか、森の出口を教えてくださいだーい！」と、きいきい声をはりあげました。

(注) ヤマブキ、ミズナラ、マンサク……いずれも木の名前。切り通し……山などを切り開いてつくった道路。

問1 文章中の(A)(D)(F)には、それぞれの次のa~dのどれかがは入ります。よいと思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- a まるで、わたしを誘ってるみたい。
- b もう一度あのチヨウチヨに会ってみたいなあ。
- c なんて、きれいなチヨウチヨなの。
- d チヨウチヨが、だんだん見えにくくなってきたわ。

問2 文章中の(B)に入れるのによいと思われるものを、次のア~エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 位置 イ 高さ ウ 方向 エ 速さ
問3 文章中の(C)に入れるのによいと思われるものを、次のア~エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア まざまざと イ しげしげと ウ すけすけと エ しぶしぶと
問4 文章中の(E)(G)に入れるのによいと思われるものを、次のア~エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア こわこわ イ よろこんで ウ おどろいて エ 迷いながら
問5 文章中の「こんなこと」「は、どういふことをさしていますか。次のア~エからよいと思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア あした家へ帰ること

イ 草むらにあおむけに寝ころぶこと
ウ その子叔母さんの山荘に行くこと
エ 来年の夏も山荘に行くこと

問6 文章中の「もしやと思って」とありますが、どういふことを思ったのですか。次のア~エから、よいと思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア チヨウが木の葉の中にかくれているかもしれないということ
イ マンサクの花がさいているかもしれないということ
ウ 女の人が木の上のぼっているかもしれないということ
エ チヨウが木の上の空中を飛んでいるかもしれないということ
問7 「こわくなり」とありますが、こわくなったのはどうしてですか。

理由を文章中の表現を用いて、二十字以上三十字以内で書きなさい。

基本問題2

しかし、その日、異変は地面の上で起こった。きげんよく、AとBは屋根から降りた。灰白色のうすい雲が切れて、しばらくの間、太陽の直射光が雪の上を照らしていたが、すでに時刻は夕方になった。太陽は光を弱め、だいだい色の陽がうすくあたりにひるがっていた。

「日がくれたきた」
Aが言うと、
「でも、まだ暗くなるまでには時間があるよ。Aちゃん、へエムマをしようか」
と、Bがさそった。

路地にすむ少年たちの遊びは、へエムマとかメンコである。そしてBは、

その種のゆづぎでも、路地の王者である。Aがおよぶわけではない。へいの上、Bは雀のこをのせた二つでのひらを胸もとに引きよせて、きっぱりと言

屋根の上では、Bのうで前にまじり気なく感たんするAも、地面の上のこれ

らのゆづぎでBに打ち負かされると、むしように腹だたしくなるのだ。

「負けるからいやだよ」

と、Aは答える。

「それじゃ、メンコにしようか。」

「地面がぬれているから、ダメだよ。」

「困ったな。おすまうの写真が、いつまでたっても借りっぱなしになってしまっ

まうな」

BはAをメンコのゆづぎで負かして、

「あれはもういいよ」

むしろAはきげんよく答えた。二人の少年の上きげんは、いぜんとして続

いていた。そのとき、短いさげび声が、AとBの口から同時に出了た。

雪が消え、白くかわいたセメントの石だたみがのぞいている歩道のすみに

雀のこが落ちていたのだ。どうしてそんな場所にいるのかわからぬが死体

ではない。かすかに羽根を動かしているのが見える。

Aは背をかかめ、その雀のこに手をのばした。なまあたたかい体温が指先

にふれたしゅんかん、Aの体ははげしくつきとばされた。二、三步、前にの

めってふみとどまったAがふり向くと、両手のひらをしゃくりあげたBが足

をふんばって立っていた。

「(1) Aは、それが当然の口調で言った。言い終わったしゅんかん、いま自分の

背に加えられたBの力のあらあらしさをあざやかにおもいつかべた。

「(2) BはAをメンコのゆづぎで負かして、

「あれはもういいよ」

「(3) BはAをメンコのゆづぎで負かして、

「(4) BはAをメンコのゆづぎで負かして、

「(5) BはAをメンコのゆづぎで負かして、

「(6) BはAをメンコのゆづぎで負かして、

「(7) BはAをメンコのゆづぎで負かして、

「(8) BはAをメンコのゆづぎで負かして、

「(9) BはAをメンコのゆづぎで負かして、

「(10) BはAをメンコのゆづぎで負かして、

胸の前に、Bは大事に雀のこをささげもって歩いてゆく。

取り残されたAは、坂道の途中でぼう立ちになっていた。Bにはげしく

ふりはらわれた手の甲は、赤くはれていた。くちおしさがAの心の中でう

ずいた。と同時に、その赤くはれた肉は、Bに対してつくえないをしたあとの

ように、Aの眼に映ってきた。

問1 の「地面がぬれているから、ダメだよ」と言ったAの気持ちを、

次の中から選んで、記号で答えなさい。

A 地面がぬれていてはメンコはできないのに、Bが非常識なことを言

うのではらだたしい。

イ Bが何か計画しているらしいから、地面がぬれているのをさいわい

なことわるう。

ウ エエエエをこわったので、メンコはしなげばと思うが、あいに

く地面がぬれているのでできない。

『 工 負けることがわかっているので、地面がぬれていることを理由にして、やらずにすませたい。』

『 工 という放心状態にしたのであろう。』

基本問題3

問2 文中の□の部分にあてはまるBの考えを、三十字以内で書きなさい。(句読点も含める)

きいちゃんは、教室の中でいつもさびしそうでした。たいていとき、うつむいてひとりぼっちですわっていました。

問3 のAがきげんよく答えた理由を一つ選びなさい。

ア Bがへエゴマやメンコをやりがったほんとうの気持ちを知るこ
とができた。

だから、きいちゃんが職員室のわたしのところへ、「せんせー」って大きな声でとびこんできてくれたときは、本当にびっくりしました。こんなにうれしそうなきいちゃんを、わたしは初めて見ました。

イ へエゴマやメンコのさそいをことわり、Bの考えにはまらずにすんだ。

「どうしたの?」「
そつたずねると、きいちゃんは、

ウ Bの借りを取り消しにすることで、一転して自分が強い立場にもど
ることができた。

「おねえさんが結婚するの。わたし、結婚式に出るのよ」
つてにこにこしながら教えてくれました。

エ 内心は不快だったがBとの関係をだめにしたくないので、きげんよ
さそうにとりつくろった。

「わたし、なに着ていこうかな?」
と、とびきりの笑顔で話すきいちゃんに、わたしもとてもうねくなりまし
た。

問4 文中の(1)～(4)にあてはまる言葉を、次の中からそれぞれ選び
なさい。

それから一週間くらいたったころ、教室で机に顔を押しつけるようにして、
ひとり泣いているきいちゃんを見つけました。

ア ちがう、ぼくが先だ。 イ その雀、ぼくにくれよ。
ウ いやだ。 エ なんだ、ぼくが先に見つけたんだぞ。

涙でぬれた顔をあげて、

問5 の「取り残されたA」の気持ちを説明した次の文の□
□にあてはまることばを、本文中の後半部分からそれぞれ五字
以内で答えなさい。

「おかあさんがわたしに、結婚式に出ないでほしいっていつの。おかあさん
は、わたしのことがはずかしいのよ。おねえさんのことばかり考えてるの。
わたしなんて、生まれてこなければよかったのに……」

『 今までなら自分の願いを受け入れてくれたはずのBに、とつぜん自分を

やっとのことですういって、またはげしく泣きました。

□ア するといつ強い姿勢を見せられた驚きと、□イ をうばわれた
上に手の甲がはれるほどふりはらわれた□ウ が、取り残されたAを、

でも、きいちゃんの「おかあさんは、いつまいつまきいちゃんのことばかり
り考えているような人でした。」

きいちゃんは、小さいときに高熱が出て、それがもとで手や足が思うように動かなくなっていました。そして、高校生になった今も訓練をうけるためにお家を遠くはなれて、この学校へきていたのです。

おかあさんは面会日のたびに、まだ暗いうちに家を出て、電車やバスを乗りつぎ、四時間もかけてきいちゃんに会いにいられていたのです。

お仕事がどんなに大変でも、きいちゃんに会いにいられるのを一度もお休みしたことはないくらいでした。そして、きいちゃんの喜ぶことはなんでもしたいのだ、と話しておられました。

だから、おかあさんは、きいちゃんがいうように、けっしておねえさんのことばかり考えていたわけではないのです。ただ、もしかしたら、おかあさんは、きいちゃんが結婚式に出ることで、おねえさんに膺身のせまい思いをさせるのではないが、手や足が思うように動かせない子どもが生まれるのでは、とまわりの人に誤解されるのではないが、と心配なさっていたのかもかもしれません。

「生まれてこなければよかったのに」ときいちゃんにいわれたおかあさんも、どんなに悲しい思いをしておられるだろう、とわたしは心配でした。

けれど、わたしは、何をすることもできませんでした。ただ、きいちゃんに、「結婚式のお祝いのプレゼントをしるすうぶ」といいました。

金沢の山の方に、和紙を作っている店といつころがあります。そこで、わたしは、布の染め方をならってきました。真っ白な布を買ってきて、きいちゃんといっしょに夕日の色に染めました。その布で、ゆかたをぬってプレゼントすることにしましたのです。

(中略)

本当をいうとわたしは、きいちゃんがゆかたをぬうのはむずかしいかもしれないと思っていました。きいちゃんは、手や足をなかなか思ったところへもっていけないので、ごはんを食べたり、字を書いたりするときも、だれかほかの人といっしょにすることが多かったのです。でも、ミシンもあるし、いっしょに針を持ってはなんとかなる、とわたしは考えていました。

でも、きいちゃんは、「ぜったいにひとりでぬう」といいはりました。まちがって針で指をさして、練習用の布が血で真っ赤になっても、

「おねえちゃんの結婚のプレゼントなんだから、ってひとりでぬうのをやめようとはしませんでした。結婚式の十日前に、ゆかたはできあがりしました。

宅配便で、おねえさんのところへゆかたを送ってから二日ほどたったころ、わたしは、おねえさんは、きいちゃんだけでなく、わたしにまで結婚式に出てほしいというのです。わたしは、きいちゃんのおかあさんの気持ちを考えると、どうしたらいいのかわからず、おかあさんに電話しました。

おかあさんは、

「あの子が、どうしてもそつしたいというのです。出てあげてください」と4おつしやるのです。わたしは、きいちゃんと結婚式に出ることにしました。花嫁姿のおねえさんは、とてもきれいでした。そして、幸せそうでした。わたしはとても幸せな気持ちになりました。でも、氣になることがあ

りました。

式が進むにつれて、結婚式に出ておられた何人かの方が、きいちゃんを見て、なにかひそひそ話しているのです。わたしは、

(きいちゃんは、どう思っているかしら。やっぱり出ないほうがよかったのではないかしら)

と、そんなことを考えていたときでした。花嫁さんがお色直しをして扉から出てきました。

おねえさんは、きいちゃんがめったあのゆかたをきて出てきたのです。ゆかたは、おねえさんにとてもよく似あっていました。きいちゃんもわたしもうれしくてたまらず、手をにぎりあつて、きれいなおねえさんばかり見つめていました。

おねえさんは、おむこさんとマイクの前にたたれて、こんなふうに話されました。

「このゆかたは、わたしの妹がぬつてくれました。妹は、小さいときに高い熱が出て、手足が不自由になりました。そのために家から離れて生活しなければなりません。家で父や母書らしているわたしのことをうらんでいるのではないかと思つたこともありました。でも、妹はそんなことはけつしてなく、わたしのためにこんなりっぱなゆかたをぬつてくれたのです妹はわたしの誇りです」

そして、きいちゃんとわたしを呼んで、わたしたちを紹介してくれました。

「これがわたしの大事な妹です」

式場中が、おおきな拍手でいっばいになりました。

なんてすばらしい姉妹でしょう。わたしは、涙があふれてきて、どうして

もとめることができませんでした。

きいちゃんは、きいちゃんとして生まれ、きいちゃんとして生きてきました。そしてこれからも、きいちゃんとして生きていくのです。もし名前をかくしたり、かくれたりしなければならなかったら、きいちゃんの生活はどんなにさびしいものになったでしょうか。

6 きいちゃんはおかあさんに、「生んでくれてありがとう」と話したそうです。

きいちゃんは、とても明るい女の子になりました。これが、本当のきいちゃんの姿だったのだと思います。あのあと、きいちゃん翻載を習いたいといいました。そして、それを一生のご仕事に選びました。

(山元加津子『きいちゃん』より)

問1 きいちゃんについて、次の各問いに答えなさい。

きいちゃんは、なぜ家からはなれて生活しているのですか。

きいちゃんは、何が原因で、手足が不自由になったのですか。

きいちゃんと「わたし」は、どういう関係ですか。

問2 線1「おかあさんは、いつもきいちゃんのことばかり考えている

ような人」とありますが、それは、おかあさんのどんなところからわかりますか。

問3 線2「もと」と同じ意味で使われているものを次の中から選び、

記号で答えなさい。

ア マッチ一本火事のもと。

イ お酒のもとは、お米です。

ウ 木のもとをほる。

エ もと文部大臣。

問4 線3「肩身のせまい」を使って短文をつくりなさい。

問5 きいちゃんが、おねえさんにつくったゆかたはどんな色でしたか。

問6 線4「おっしゃる」について、次の各問いに答えなさい。

「おっしゃる」は、だれがだれに対して使った敬語ですか。

「おっしゃる」をふつうの言い方にしなさい。

問7 線5「気になる」と「とは」とは、どういふことですか。

問8 線6「きいちゃんは、おかあさんに、『生んでくれてありがとう』

とお話したそうです」とありますが、「わたしなんて、生まれてこなければよかったのに……」と想っていたきいちゃんの気持ちが、このように変わったのは、どうしてだと考えられますか。